

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

学校名	上峰町立上峰小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上に向けて、教員の意識、実践は高まっているが、結果としての児童の十分な学力定着には至っていない。校内研究の新たな取組を考えていく必要がある。 ・支援が必要な児童への支援体制については、引き続き、関係機関との連携やケース会議などを開催し、組織的な早期対応が必要である。 ・教職員の業務改善に向けて、校時表の改善や連絡事項のWEB管理などを視野に入れていく。
2 学校教育目標	心と智恵と技をとぐ上峰っ子の育成

3 本年度の重点目標	①児童の十分な学力定着に向けて、校内研究の新たな取組視点を共通理解・共通実践し、日々の授業において授業改善を行う。 ②「いじめの早期発見・早期対応」に向けて、再度いじめの定義を全職員で共通理解し、アンケート・児童観察等をもとに積極的認知・指導に取り組む。「不登校児童」については、学校・家庭・関係機関の連携を軸に支援を進めていく。 ③「気になる子、配慮を要する子」に関する教職員の専門性を高め、チーム上峰として職員全体で共通理解した適切な支援へと繋げる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・校内研も活用しながら「書く活動」を取り入れた授業改善に全職員で取り組む。	○「自分の考えを相手に分かるように書くことができた」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合85%以上。 ○1月に実施予定のCRT学力検査、国語において、児童の平均正答率、前年度以上。	・自分の考えを書く活動を授業に取り入れる。その際、「授業づくりのステップ1. 2. 3」を参考にし、全職員で共通理解を図りながら実践できるようにする。 ・児童が学び方を身に付けることができる自主学習に取り組む。	A	・アンケート「自分の考えを相手に伝えるように考えて書くことができる」に肯定的な回答をした児童は89%だった。 ・校内研で、学び方を身に付ける自主学習について共通理解を図った。	A	・アンケート「自分の考えを相手に伝えるように書くことができる」に肯定的な回答をした児童は90%だった。 ・校内研を中心に授業改善に取り組んだ結果、CRT学力検査、国語の平均正答率が前年度を上回った。	A	・CRT学力検査、国語の平均正答率が前年度を上回っていることが評価できる。 ・授業改善に生かされた書く活動に学校全体で取り組まれたのは高く評価できる。 ・タブレットPC使用により、書く機会が減ってきているので、「書く」ことに重点を置くことを続けてほしい。	知恵をとぐ部会
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート「道徳の授業を計画的に行っており、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	・年間計画を基に道徳の授業を意図的に仕組む。 ・保護者参加型の道徳の授業を通して家庭との連携を図る。	A	・アンケート「道徳の授業を計画的に行っており、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員は93%だった。 ・ふれあい道徳(授業参観)では、同日に開催されたPTA講演会のテーマと合わせて情報モラルの授業に取り組んだ学年もあった。	A	・アンケート「道徳の授業を計画的に行っており、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員は100%だった。 ・ふれあい道徳(授業参観)で保護者参加型の道徳の授業を行い、学級通信などでその様子を伝えることができた。	A	・保護者の立場から、授業参観や学級通信で様子を伝えてもらえて助かっている。 ・たとえ難しくても音楽や絵画、自然などの「本物」に子供のころに触れることは大切。 ・他者の命を大切にしようとする心情を育てるための保護者参加型授業で子供達も心豊かに育っている。	心をとぐ部会①
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート「いじめの未然防止に向けての定着取組、事案対処等について、組織的な対応ができている」に肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	・SC、SSWとの連携を図り、学年を中心に組織的に指導を行う。 ・いじめへの対応のために、ハイパーQU研修やSC研修、事例研修会を行う。 ・心のアンケートについて保護者に周知する。	A	・アンケート「いじめの未然防止に向けての定着取組、事案対処等について、組織的な対応ができている」に肯定的な回答をした教員は93%だった。 ・夏季休業中にQU研修、SC研修を行い、研鑽を深めている。 ・月に一度の心のアンケートについて「心部だより」で保護者に知らせ、アンケートの結果は、学年で共有し事後の生徒指導に生かしている。	A	・アンケート「いじめの未然防止に向けての定着取組～」に肯定的な回答をした教員は100%だった。 ・夏季休業中の研修でいじめの未然防止に向けて研鑽を深めたり、いじめアンケートを受けて、学年団を中心に組織的な事後対応をしたりすることができた。 ・心のアンケートについて「心部だより」で保護者に知らせた。そのほかの取り組みについても今後保護者に発信していきたい。	A	・学校と家庭の連携強化により、いじめの未然防止、いじめが起きにくい許さない環境づくりが高く評価できる。 ・引き続き早期発見、早期対応体制を充実させ、子どもたちが安心できるようにしてほしい。 ・「いじめ」を学年や学校全体で組織的に大きくとらえ、対応することは大事なので、先生方の日頃の努力に感謝する。	心をとぐ部会①
	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●キャリアパスポートを利用して「目標を立てて、その実現に向けて意欲的に取り組むことができた」と回答した児童85%以上。 ●○「将来の夢または『こんな大人になりたい』という目標を持っている」と回答をした児童生徒85%以上。	・キャリア教育の基礎的、汎用的能力を基に、具体的に目標を書かせたり、振り返りを書かせたりする。 ・5. 6年生は、マナー教室を通して将来の夢や目標を語ることで、自分の将来についてより具体的に考えることができるようにする。	A	・「キャリアパスポートで立てた目標の実現に向けて意欲的に取り組むことができた」と回答した児童95%であった。 ・「現段階で将来の夢や『こんな大人になりたい』という目標をもっている児童は97%だった。6年生はマナー教室に向けて、将来の自分の姿について考える機会があった。5. 6年生は2学期にマナー教室があるため、将来についてより具体的に考えられることが期待できる。	A	・アンケート「キャリアパスポートを含め自分が立てた目標を達成するために一生懸命に頑張ることができた」に肯定的な回答をした児童93%であった。 ・アンケート「将来の夢、または『こんな大人になりたい』という目標をもつことができた。」と回答した児童100%を達成した。様々なキャリア教育を通して、自分の将来に目を向ける時間を設けることで、より具体的に将来像を考えることができた。	A	・夢や目標に向かって、自ら考え、積極的に行動する生徒を育成し、将来の夢をもたせることは大変すばらしい。 ・アンケート結果より、自分の将来に目を向ける時間は有意義なものになっている。 ・これからのいろいろな職業の人の話を子どもたちに聞かせてほしい。時には身近な先生方や保護者の方の話でもよいと思う。	技をとぐ部会
	○人権・同和教育の推進	○道徳の授業や人権集会を通して、「人を思いやることができるようになった」とワークシートに記入した児童の割合が80%以上。	・年間4回の人権集会を通して、人権について考える機会をつくり、児童が相手の気持ちを考えようとする行動ができるようにする。	A	・アンケートでは、道徳の授業や人権集会を通して「思いやりの気持ちが深まった」と肯定的な回答をした児童の割合が89%であった。	A	・第4回人権集会後のアンケートでは、「思いやりの気持ちが深まった」と肯定的な回答をした児童の割合が97%以上であった。	A	・思いやりの気持ちが深まったと答えられる児童が多いのは評価できる。 ・「人権集会」で感じた他人を思いやる心を大人になっても忘れないでほしい。	心をとぐ部会①
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○アンケート「体を動かすことや休み時間中の外遊び」に対して肯定的な回答をした児童の割合85%以上。 ○行事後のアンケート「～大会～記録会」には、練習を頑張ったり取り組めたか」に、肯定的な回答をした児童の割合90%以上。	・業間休みや昼休みにおける外遊びの奨励、運動委員会の活動による取組みの促進を図る。 ・体育大会・水泳記録会・縄跳び記録会などの行事を通して、運動への興味関心を高め、運動に親しませる。	B	・アンケート「体育の授業を工夫したり、業間や昼休みに外遊びを促したり、体を鍛えることを推奨している」に肯定的な教員は90%以上であった。しかし、体を動かすことや外遊びに対する児童のアンケートも肯定的意見が82%ほどであった。 ・アンケート「～大会などの行事において、練習を頑張りながら取り組むよう指導している」に肯定的な意見の教員は100%で、同様のアンケートに対して児童の肯定的な意見は98%ほどであった。	A	・アンケート「体育の授業を工夫したり、業間や昼休みに外遊びを促したり、体を鍛えることを推奨している」に肯定的な教員は97%であり、体を動かすことや外遊びに対する児童のアンケートも肯定的意見が92%ほどであった。 ・アンケート「～大会などの行事において、練習を頑張りながら取り組むよう指導している」に肯定的な意見の教員は97%で、同様のアンケートに対して児童の肯定的な意見も93%ほどであった。	A	・先生方の体育の授業を工夫して運動やスポーツの楽しさや喜び、体力の向上を図る取組は高く評価できる。 ・健康な体づくりに運動は欠かせないため、先生方の授業の工夫や声掛けが重要である。 ・今後も体を動かすことの大切さを伝えてほしい。	心をとぐ部会②
	○望ましい生活習慣の形成	○アンケート「早寝早起き朝ごはんを毎日行う取組」に肯定的な回答をした児童の割合85%以上。	・睡眠、食生活等について、栄養教諭、養護教諭が担任と連携し授業での啓発を行う。 ・食育だより、保健だより、集会等を通して、「早寝早起き朝ごはん」の重要性を保護者、児童に呼びかけを行っている。	A	・アンケート「基本的な生活習慣の定着を図るために、早寝早起き朝ごはんについて継続的な指導を行っている。」に肯定的な回答をした教員は97%である。 ・始業式、終業式等で早寝早起き朝ごはんについて児童に啓発した。	A	・アンケート「早寝早起き朝ごはんを毎日行う取組」に肯定的な回答をした児童の割合は95%であった。3年、6年にとったアンケートでは、96%の児童が毎日朝食を摂っており、規則正しい生活習慣が身についている傾向がうかがえる。	A	・規則正しい生活習慣が身につけている児童が多いことはとても良いことだと考える。 ・アンケート結果から96%の児童が毎日朝食を摂っていることがわかり少し安心した。100%になることを願っている。	心をとぐ部会②
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超えない職員の割合90%以上。	・会議時間の短縮や学年部内でのOJTの取り組みを行うことで、1日の時間外勤務を120分以内に抑えられるようにし、原則18:45までに施錠をする。	B	・会議の削減、会議時間の短縮、OJTの取り組みを行うことができたが、月あたり時間外在校等時間の上限45時間の遵守できた教員の割合は 82%であった。	A	・デジタル掲示板の活用による会議時間の短縮や5時間授業増加に伴う放課後の時間の確保により、月あたり時間外在校等時間の上限45時間の遵守できた教員の割合は92%であった。	A	・学校の抱える課題の複雑化が進んでいる中、業務改善による時間短縮につながる成果は大変すばらしい。 ・先生方、お忙しい中いつも子どもたちのためにありがとうございます。上限45時間を工夫して遵守されている。	学年主任会
	○業務改善・働き方改革の推進	○アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	・連絡事項のデジタル化や行事の精選、職員室の整理整頓等を通して、業務改善に取り組む。	A	・アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合100%であった。	A	・アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合97%であった。	A	・自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた先生方もそうだった先生方も健康第一。 ・先生方を取り巻く環境は時代の変化に合わせて業務の在り方をリニューアルしていく必要がある。	学年主任会
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○アンケート「特別支援や教育相談に関する研修会を行い、個の児童への柔軟な対応力が向上した」に、肯定的な回答をした教員の割合が80%以上。 ○アンケート「不登校、学力不振等で、特別支援CO、SC、SSW等の教育相談体制を活用したり、ケース会議を通して相談したり対応したりしている。」に、肯定的な回答をした教員の割合が80%以上。	・長期休業中の研修会や、月ごとの連絡会を通して、配慮を要する子の共通理解を図る。 ・必要に応じてケース会議を実施し、支援が必要な児童の情報を共有し、全ての教員で組織的に対応する。	A	・アンケート「特別支援や教育相談に関する研修会を行い、個の児童への柔軟な対応力が向上した」に、肯定的な回答をした教員は100%であった。 ・アンケート「不登校、学力不振等で、特別支援CO、SC、SSW等の教育相談体制を活用したり、ケース会議を通して相談したり対応したりしている。」に、肯定的な回答をした教員は93%であった。	A	・アンケート「特別支援や教育相談に関する研修会を行い、個の児童への柔軟な対応力が向上した」に、肯定的な回答をした教員は100%であった。 ・アンケート「不登校、学力不振等で、特別支援CO、SC、SSW等の教育相談体制を活用したり、ケース会議を通して相談したり対応したりしている。」に、肯定的な回答をした教員は100%であった。	A	・特別支援の一人一人に合った対応をいつもありがとございます。 ・アンケート結果が100%のため、申し分ない。 ・特別支援教育の学習が上峰小は充実していると思う。 ・研修会の成果は児童一人一人がもてる力を最大限発揮できるように先生方が連携して支援されたことが素晴らしい。	特別支援CO
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT活用した個に応じた学びの充実	○ICT活用による学びの保障と個に応じた教育活動の実践	○アンケート「学習でタブレットPCを活用できた」に、肯定的な回答をした児童の割合90%以上。	・日々の授業、オンライン学習、学級閉鎖での家庭への持ち帰り等で1人1台端末を使った教育活動を実践する。	A	・アンケート「学習でタブレットPCを活用できた」に、肯定的な回答をした児童の割合は93%であった。 ・夏季休業中に研修を行ったり、「ICT通信」を発行したりした。	A	・アンケート「学習でタブレットPCを活用できた」に、肯定的な回答をした児童の割合は97%であった。 ・全学年でタブレットPCの家庭への持ち帰りを実施し、特に学級閉鎖時の家庭学習に活用した。		・上峰小学校では、他校よりいち早く導入されICT活用で幅広い新しい授業へ変わるでしょう。 ・学級閉鎖時にプリント持ち帰りの時代ではなくなり、プリントよりもタブレットPCの方がやる気が出るのだからと思う。	学力向上対策委員会

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上については、校内研究を通して教職員の意識、実践が高まり、漢字力をはじめとした学力定着につなげることができた。次年度は、更に授業改善を行い、学力向上を目指したい。 ・支援が必要な児童に対して、教育相談体制の活用、関係機関との連携を図ることで、組織的な対応を行うことができた。今後、支援が必要な児童に対して早期対応ができるように、校内支援体制の整備、関係機関との連携強化を図りたい。 ・教職員の業務改善に向けて、校時表の改善や連絡事項のWEB管理などを行い、業務改善を進めることができた。次年度は、更に授業時数の改善などを行うことで、業務改善を進めたい。
--------------------	--